

小谷昇・井田敏行・
小平恵一・細田力 共著

図解土木講座

コンクリートの 知識



絵とマンガにより書かれたコンクリートの本が出た。中学、高校の参考書の中には、マンガにより説明されているものもかなりあると聞く。また、現代のマンガ、劇画の流行を考えると、絵とマンガで書かれた土木の本が出た所で、何も不思議ではないのかもしれない。

物事をわかりやすくかつ平易に記述することは大変むずかしいことであり、厳密な正確さを必要とする工学書においては、とくにそ

の傾向が著しく、「やさしい〇〇講座」というタイトルで書かれたものでも、やさしいのは最初の数行というものも珍しいことではない。本書は、厳密にして正確な記述という点からはやや難があることはやむをえないが、わかりやすく説明されているという点では十分評価に値するものであり、この種の本の今後に期待したい。

次の人びとにすすめる本である：マンガ本しか読まないヤング、何度説明しても理解しない頭の悪い部下をもった人、むずかしい言葉ばかり使って何を説明しているのかわからない先生に教わっている学生、素人を相手に実験を行わなければならない人、などなど。

最後に本書の内容——コンクリートの材料、性質、配合など、試験方法がとくによく書かれている。

(技報堂刊、B5判・101ページ・2色刷、定価1300円。昭和49年4月27日受付)

ウォールおよびマーチン著：加藤晃・山根孟訳「計画者と技術者のための交通工学、上・下」(鹿島出版会、上下各2800円、2400円)は、おそらく現在和文で刊行されている交通工学の教科書としては最も専門的に充実した内容を持っているものである。実務家および交通工学専攻学生、大学院学生などに向いているであろう。

④ 資料 交通工学関係資料を検索しやすい形に集大成しようとする努力が交通工学研究会でなされており、その第1部として「交通工学研究会編「交通関係資料集(統計編、昭和47年)」」(技術書院、1000円)

が刊行されている。近く第2部(設計編)も出版されると聞く。

⑤ 各論 佐佐木綱著「都市交通計画」(国民科学出版社、3000円)はトリップ発生、OD分布、交通配分交通網計画などの交通計画に関する教科書として最近の研究成果も含めて、よくまとめられている著作である。数理モデル、計画手法についての勉強をするのに適している。学生、実務家のいずれにも向いている。

「道路の交通容量」(技術書院、3200円)は、アメリカ合州国のHighway Research BoardのHighway Capacity Manualを交通工

学研究会が訳したものであり、交通容量関係の原典といえるものである。実務家向きである。

「交通工学シリーズ」(技術書院)は、交通工学および関連分野を網羅したもので、テーマ別に全35巻から成っている。全般にかなり平易に記述されているので、実務家のためのメモとしても、また専門外の人びとのための入門書としても利用できよう。巻数が多く、個々に紹介することができないので、一覧表を掲げることにしてしよう。

(筆者・正会員 工博 東京大学助教授
生産技術研究所)